

第17回 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日時：平成 29 年 11 月 8 日（水） 15:00 ～ 17:00

1. 猛禽類検討会の経緯

- ・これまでの検討経緯について説明した。

2. 平成29年繁殖シーズンの調査結果について

- ・クマタカ A ペアについて、今シーズンの調査で昨シーズン生まれの幼鳥が確認されたことを報告した。これにより平成 28 年繁殖シーズンは A,B,C の 3 ペアとも繁殖が成功したことを報告した。
- ・クマタカ A,B,C の 3 ペアは、平成 29 年繁殖シーズンの繁殖は確認されなかったことを報告した。
- ・クマタカ A,B,C の 3 ペアの行動圏については、A ペアが一部南側に、B ペアが一部東側に広がりを確認した他は、大きな変化はなかったことを報告した。
- ・その他猛禽類のサシバ 2 ペアについて、昨シーズンと同じ営巣木で営巣痕を確認したが、幼鳥は確認されなかったことを報告した。
- ・サシバ以外の猛禽類については、繁殖活動が確認されなかったことを報告した。

3. 平成29年繁殖シーズンのモニタリング結果の評価について

- ・工事期間中の定点観察では、クマタカの忌避、警戒行動等は確認されなかったことを報告した。
- ・また、これまでの営巣木～工事箇所等の離隔と騒音の実績や予測値からも、影響を与えたとは考えにくいことを報告した。

4. 平成30年繁殖シーズンの調査計画（案）について

- ・平成 30 年繁殖シーズンは、前年同様の調査計画とすることについて了解を得た。
- ・近年は、隔年の繁殖サイクルとなっており、平成 30 年繁殖シーズンは繁殖する可能性が高いと考えられることから、これまでの経緯も踏まえ営巣木の移動も留意しつつ、モニタリング調査を実施することとした。

5. クマタカの実環境保全措置の対応方針について

- ・平成 30 年度末迄に予定されている工事、埋蔵文化財調査（範囲確認調査・本調査）は、営巣木との距離・位置関係、過去の施工実績、時期から、前年同様に定点観察でモニタリングしつつ実施することで了解を得た。
- ・工事と営巣木との距離関係が接近する場合を想定して、個別に実施する環境保全措置の対応フローについて確認した。個別に実施する環境保全措置の一つとして工事騒音に対する馴化の実施（案）を提示し、今後、指導・助言を得ながら進めることとした。
- ・クマタカのコアエリア外の樹木伐採は、急激な改変とならないように順次進めて行く方針について了解を得た。

以上